

「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

平成 29 年 7 月 13 日	
所属部局・職	霊長類研究所・修士課程学生
氏名	瀧山 拓哉

<b>1. 派遣国・場所</b> (〇〇国、〇〇地域)
公益財団法人日本モンキーセンター
<b>2. 研究課題名</b> (〇〇の調査、および〇〇での実験)
動物園・博物館実習
<b>3. 派遣期間</b> (本邦出発から帰国まで)
平成 29 年 7 月 8 日 ~ 平成 29 年 7 月 10 日 (3 日間)
<b>4. 主な受入機関及び受入研究者</b> (〇〇大学〇〇研究所、〇〇博士/〇〇動物園、キュレーター、〇〇氏)
公益財団法人日本モンキーセンター 伊谷原一 (JMC 園長、WRC 教授)、大淵希郷 (JMC キュレーター、WRC 特定助教)
<b>5. 所期の目的の遂行状況及び成果</b> (研究内容、調査等実施の状況とその成果：長さ自由)
写真 (必ず 1 枚以上挿入すること。広報資料のため公開可のもの) の説明は、個々の写真の直下に入れること。 別途、英語の報告書を作成すること。これは簡約版で短くてけっこうです。
犬山市にある公益財団法人日本モンキーセンター (JMC) は日本で唯一博物館として登録されている動物園である。本実習では、PWS のアウトリーチ活動の場の 1 つである JMC について学ぶと同時に JMC での実習を通じて PWS の出口の一つである博士学芸員の仕事について学ぶことが目的であった。
日程 7 月 8 日 園長によるレクチャー (伊谷園長), 園内見学 (大淵キュレーター), 標本実習 (新宅キュレーター) 7 月 9 日 科学コミュニケーションに関する講義 (大淵キュレーター), 来園者会話調査 (赤見キュレーター), アフリカ館での飼育実習 (辻内さん, 奥村さん) 7 月 10 日 エンリッチメントに関する講義 (綿貫キュレーター), アフリカ館でのエンリッチメント実習 (辻内さん, 奥村さん), 博物館学概論 (高野キュレーター), 獣医実習 (岡部先生), JMC 研究活動紹介 (早川キュレーター)
JMC についてはこれまで様々な機会に知ることはできていたが、今回は実習として受け入れていただくことで、より詳しく JMC のことを知ることができた。伊谷園長の講義では設備の老朽化や来園者の少なさなど問題点とそれを改善するために行われている工夫について知ることができた。骨にじっくりと触れる機会は今までなかったため、標本実習で自分で骨をわけることは非常に新鮮な経験だった。ヒトを含めて骨の数に個体差があることや、成長していくにつれて、形が変わっていくことなど知らないことばかりであった。


## 「霊長類学・ワイルドライフサイエンス・リーディング大学院」による派遣研究者報告書

(当経費の支援を受けての出張後、必ずご提出ください)

### メスニホンザルの骨盤 左に行くほど年を取った個体

来園者会話調査実習では、タイミングが悪く、あまり来園者を見つけることはできなかったが、調査方法は非常に有効だと思った。こういった改善を優先するかということには来園者側と動物園側でズレが生じてしまうことも多いだろう。対話で立場の違う両者のずれをなくしていくサイエンスコミュニケーション同様、ズレを少しでも減らしていく努力が大切なのだと感じた。

飼育実習、エンリッチメント実習ではアフリカ館で辻内さんと奥村さんの指導のもと、Mi Yeon KIMさんと実習を行った。9日はタラポアン(*Miopithecus talapoin*)、10日はサバンナモンキー(*Chlorocebus aethiops*)の飼育舎の改善であった。少しでも野生での暮らしに近づけることができるように、と口で言うことは簡単だが、狭い飼育スペースの中で工夫を凝らすことは非常に難しかった。実習後タラポアンを飼育舎に出した際のタラポアンの様子を見ていると充実感を得ることができた。しかし、翌日見てみると、一部の植物が枯れているなど、思うように状態を維持することは難しいと感じた。

10日の講義では、JMCで行われている様々な活動を知ることができた。標本が生体だったころの情報がいかに大切にしているかなど、JMCが博物館としてどのように活動しているのか、こういった独自性があるのかなどを知ることができた。

3日間と短期間の実習であったが、密度の濃い3日間を過ごすことができた。研究を行う上ではサイエンスコミュニケーションを行うことは不可欠であり、そのためには知識だけではなく様々な技術や心構えが必要である。本実習での経験をかすと同時に、今後とも頻繁にJMCを訪れ学び続けたい。



新たに導入したツタを食べるタラポアン



大淵キュレーターによる講義の様子

### 6. その他 (特記事項など)

対応して下さった大淵キュレーター、辻内様、奥村様をはじめ日本モンキーセンターの皆様には非常にお世話になりました。ありがとうございました。また、本実習はPWSの支援によって行われました。ここにお礼申し上げます。